

最近のロシアの人口移動

中 村 泰 三

要 旨

最近のロシアの人口移動を主にロシアの経済地域別に観察すると、かつての人口移動と逆の現象、つまりロシアへの外国からの人口流入、北部、極東地方からの人口流出の生じていることが見出された。その主因は経済、民族などの諸問題である。

キーワード：人口移動、経済地域、人口自然減、ロシア極東地方、不法入国者

はじめに

近年のロシアの人口移動は、ソ連時代と比べて大きく変化している。この変化は現在かなり知られるようになった事実であり、筆者もこれまでこのことについて若干の報告をしてきた。ここでは本学の研究助成金を利用して、最近の動向について取り扱うが、これまで入手したデータをもとに中間報告を行いたい。今後さらに資料を収集して分析し、最終的な研究結果の発表は次の段階で行う予定である。

1. ロシアの共和国、州別人口動態

まず人口の全体的把握のため、ロシアの共和国、州別つまり主権構成体別にみた1995、1996年の人口の動きをみるために、表1を用意した。ここにみられるように、人口の自然減が依然顕著で、主権構成体の多くでそれがみられるが、社会増により人口の自然減をかなり補っているのが分かる。この傾向は1997年

最近のロシアの人口移動（中村）

表1 ロシアの人口動態

地 域 名	人口 (千人)	1997年	年間変化 (千人)	実数	%	1995年1月～11月 (実数)		1996年1月～11月 (実数)		
						出生者	死亡者	自然増減	出生者	死亡者
ロシア	147,501.4		-475.0	-0.3	1,266,282	2,004,793	-738,511	1,202,039	1,921,743	-719,704
北部										
カレリア共和国	5,832.9		-56.2	-1.0	47,839	76,900	-29,061	46,159	71,394	-25,235
コミ共和国	780.1		-4.9	-0.6	6,268	11,717	-5,449	5,943	10,383	-4,440
アルハンゲリ斯克州	1,172.2		-13.3	-1.1	10,294	13,909	-3,615	9,989	12,693	-2,704
ボロゴド州	1,506.4		-14.4	-0.9	12,421	20,232	-7,811	11,901	19,098	-7,197
ムルマンスク州	1,344.1		-5.7	-0.4	10,851	19,947	-9,096	10,368	19,405	-9,047
北西部	1,030.1		-17.9	-1.7	8,005	11,095	-3,090	7,968	9,815	-1,847
サンクト・ペテルブルグ市	8,016.9		-35.4	-0.4	54,204	126,823	-72,619	50,711	115,623	-64,912
レニングラード州	4,774.2		-27.3	-0.6	31,460	69,784	-38,324	29,053	62,918	-33,865
ノブゴロド州	1,677.2		1.3	0.1	11,314	27,933	-16,619	10,731	25,272	-14,541
アスコフ州	738.5		-4.1	-0.6	5,474	13,257	-7,783	5,109	12,455	-7,346
中部地域	827.0		-5.3	-0.6	5,956	15,849	-9,893	5,818	14,978	-9,160
ブリヤンスク州	29,750.9		-132.1	-0.4	215,198	472,182	-256,984	207,165	443,717	-236,552
ウラジミール州	1,473.0		-6.7	-0.5	12,692	21,026	-8,334	11,788	20,797	-9,009
イワノボ州	1,636.9		-7.8	-0.5	11,744	24,548	-12,804	11,274	24,031	-12,719
カルガ州	1,255.5		-10.9	-0.9	8,609	21,295	-12,686	8,055	20,574	-12,519
コストロマ州	1,095.9		-1.4	-0.1	8,044	16,257	-8,213	7,320	15,522	-8,202
モスクワ市	800.7		-5.0	-0.6	5,982	12,373	-6,391	5,818	12,385	-6,567
モスクワ州	8,637.0		-27.4	-0.3	64,080	133,603	-69,523	63,426	119,247	-55,821
オリョール州	6,573.2		-23.4	-0.4	44,041	105,907	-61,866	42,909	97,130	-54,221
リャゼン州	910.3		-3.7	-0.4	7,444	13,377	-5,933	7,032	13,256	-6,224
スモレンスク州	1,316.5		-8.8	-0.7	9,662	21,687	-12,025	9,151	21,130	-11,979
トゥーラ州	1,166.2		-6.2	-0.5	8,772	18,058	-9,286	8,179	17,986	-9,807
ヤロスラウリ州	1,642.6		-8.0	-0.5	11,475	28,945	-17,470	10,946	28,187	-17,241
	1,800.1		-14.4	-0.8	12,398	32,128	-19,730	11,593	30,802	-19,209
	1,443.0		-8.4	-0.6	10,255	22,978	-12,723	9,674	22,670	-12,996

最近のロシアの人口移動（中村）

ヴォルガ・バイヤトカ地域										
マリエル共和国	8,404.1	-39.7	-0.5	67,924	120,892	-52,968	63,908	114,692	-50,784	
	764.3	-2.0	-0.3	6,863	9,105	-2,242	6,467	8,767	-2,300	
モルドビヤ共和国	950.0	-5.8	-0.6	7,974	12,158	-4,181	7,252	12,524	-5,272	
チュウシ共和国	1,359.0	-1.8	-0.1	12,869	15,871	-3,002	12,385	15,523	-3,138	
キエフ州	1,622.9	-11.6	-0.7	12,338	24,219	-11,881	11,477	22,950	-11,473	
ニジェゴロド州	3,707.9	-18.5	-0.5	27,880	59,539	-31,659	26,327	54,928	-28,601	
中央黒土地域										
ベルゴロド州	7,863.1	-17.5	-0.2	62,527	115,937	-53,410	59,367	116,450	-57,083	
ボロネジ州	1,477.5	8.4	0.6	12,699	19,598	-6,899	11,939	19,811	-7,872	
クルスク州	2,485.4	-8.4	-0.3	19,229	37,339	-18,110	18,324	37,852	-19,528	
リーベック州	1,341.3	-5.6	-0.4	10,683	20,291	-9,608	10,334	21,039	-10,705	
タムボフ州	1,247.7	-2.5	-0.2	9,687	18,238	-8,551	9,123	17,580	-8,457	
	1,301.2	-9.4	-0.7	10,229	20,471	-10,242	9,647	20,168	-10,521	
沿ヴォルガ地域										
カルムイク共和国	16,889.8	-30.3	-0.2	145,954	215,753	-69,799	136,776	212,007	-75,231	
タタールスタン共和国	316.7	-1.8	-0.6	4,005	3,037	968	3,619	2,980	639	
アストラハン州	3,763.2	2.7	0.1	36,219	44,153	-7,934	34,801	42,091	-7,290	
ボルゴグランド州	1,029.3	0.4	0.04	9,590	12,380	-2,790	9,188	12,486	-3,298	
ペンザ州	2,701.6	-2.1	-0.1	22,908	35,954	-13,046	21,501	35,856	-14,355	
サマラ州	1,554.7	-7.6	-0.5	11,826	21,160	-9,334	11,060	21,360	-10,300	
サラトフ州	3,308.5	-3.0	-0.1	26,258	44,495	-18,237	24,365	43,665	-19,300	
ウリヤノフスク州	2,725.8	-13.7	-0.5	22,707	36,288	-13,581	20,840	36,140	-15,300	
	1,490.0	-5.2	-0.3	12,441	18,286	-5,845	11,402	17,429	-6,027	
北カフカス地域										
アディゲ共和国	17,778.2	40.3	0.2	186,215	205,381	-19,166	174,192	204,460	-30,268	
ダゲスタン共和国	449.0	-1.5	-0.3	4,452	5,874	-1,422	3,998	5,757	-1,759	
イングーシ共和国	2,121.2	23.7	1.1	41,569	135,48	28,021	38,710	14,539	24,171	
カバルディノ・バヴカル共和国	303.5	3.8	1.3	6,218	16,79	4,539	5,667	1,877	3,790	
カラチヤフ・チェルケス共和国	789.5	-0.4	-0.1	9,977	7,385	2,592	9,462	7,594	1,868	
北オセチア共和国	436.1	-0.2	-0.05	51,49	40,64	10,85	4,847	4,385	462	
チェチェン共和国	664.2	1.6	0.2	81,93	7,737	456	7,331	7,774	-443	
クラスノダル地方	862.2	-2.9	-0.3	-	-	-	-	-	-	
スタブロポリ地方	5,066.0	22.1	0.4	46,598	69,415	-22,817	43,908	68,657	-24,749	
ロストフ州	2,671.8	4.8	0.2	26,317	32,712	-6,395	24,304	32,796	-8,492	
	4,414.7	-10.7	-0.2	37,742	62,967	-25,225	35,965	61,081	-25,116	

最近のロシアの人口移動（中村）

地域名	人口（千人）		年間変化（千人）		出生者		死亡者		自然増減	
	1997年	実数	%	実数	1995年1月～11月	1995年1月～11月	1996年1月～11月	1996年1月～11月	1995年1月～11月	1996年1月～11月
ウラル地域										
バシコルトスタン共和国	20,410.1	-50.8	-0.2	18,124.1	269,239	-87,998	174,542	256,153	-81,611	-4,137
ウドムルト共和国	4,103.9	7.3	0.2	4,244.7	47,002	-4,555	41,480	45,617	-4,137	-5,482
クルガン州	1,635.7	-3.4	-0.2	1,441.4	20,575	-6,161	13,625	19,107	-5,482	-5,618
オレンブルク州	1,104.7	-7.5	-0.7	932.6	14,747	-5,421	8,791	14,409	-5,618	-6,601
ベルム州	2,225.8	-2.8	-0.1	2,093.0	26,938	-6,008	19,904	26,505	-6,601	-14,913
スベドログラフスク州	2,996.8	-12.6	-0.4	2,587.7	43,681	-17,804	25,425	40,338	-14,913	-27,713
チェリヤビンスク州	4,667.8	-18.5	-0.4	3,742.7	66,307	-28,880	35,688	63,401	-27,713	-17,147
	3,675.4	-13.3	-0.4	3,082.0	49,989	-19,169	29,629	46,776	-17,147	
西シベリア地域										
アルタイ共和国	15,087.2	-40.5	-0.3	13,271.8	186,181	-59,463	127,097	183,153	-56,056	81
アルタイ地方	202.1	0.5	0.2	263.0	2,389	241	2,470	2,389	81	-14,735
ケメロボ州	2,675.2	-14.9	-0.6	2,164.5	35,968	-14,323	20,763	35,498	-14,735	-21,820
ノボシビルスク州	3,042.2	-21.3	-0.7	2,557.6	46,771	-21,195	23,841	45,661	-21,820	-13,781
オムスク州	2,744.6	-4.0	-0.1	2,191.0	35,270	-13,360	21,035	34,816	-13,781	-4,660
トムスク州	2,174.2	-2.2	-0.1	2,087.7	24,472	-3,595	19,741	24,401	-4,660	3,004
チュメニ州	1,071.8	-5.8	-0.5	916.5	12,873	-3,708	8,982	13,077	-4,145	
	3,177.1	7.2	0.2	3,091.5	28,438	2,477	30,315	27,311	3,004	
東シベリア地域										
ブリヤート共和国	9,112.0	-32.1	-0.4	934.28	116,113	-22,685	86,889	109,863	-20,974	-230
タイ共和国	1,049.7	-2.8	-0.3	1,133.9	11,526	-187	11,197	11,427	-230	1,441
ハカス共和国	310.2	0.5	0.2	564.4	3,695	1,949	5,210	3,769	1,441	-2,277
クラスノヤルスク地方	584.3	-1.5	-0.3	543.4	7,584	-2150	5,184	7,461	-2,277	-10,923
イルクーツク州	3,095.1	-10.8	-0.3	2,847.7	40,357	-11,880	26,938	37,861	-10,923	-7,624
チタ州	2,784.9	-10.3	-0.4	2,773.3	37,718	-9,945	26,917	34,541	-7,624	
	1,287.8	-7.2	-0.6	1,476.1	15,233	-472	13,443	14,804	-1,361	

最近のロシアの人口移動（中村）

極東地域	7,421.1	-83.6	-1.1	71,574	87,822	-16,248	66,360	83,040	-16,680
サハ共和国	1,015.6	-7.2	-0.7	14,368	9,390	4,978	13,353	8,831	4,522
ユダヤ自治州	206.7	-3.2	-1.5	2,150	2,667	-517	1,952	2,487	-535
チュコト自治管区	87.4	-3.1	-3.4	839	728	111	812	690	122
沿海地方	2,238.8	-16.6	-0.7	19,794	27,244	-7,450	18,019	26,367	-8,348
ハバロフスク地方	1,555.5	-15.7	-1.0	13,554	18,937	-5,383	12,179	18,205	-6,026
アムール州	1,031.7	-6.1	-0.6	9,779	11,393	-1,614	9,395	11,606	-2,211
カムチャッカ州	402.5	-8.6	-2.1	3,549	4,279	-730	3,463	3,957	-494
マガダン州	251.1	-7.1	-2.7	2,116	2,646	-530	1,943	2,499	-556
サハリン州	631.8	-16.0	-2.5	5,425	10,538	-5,113	5,244	7,798	-2,554
カリニングラード州	985.1	2.9	0.3	7,460	11,570	-4,110	6,873	11,191	-4,318

資料：『1996年のロシアの社会経済状況』、モスクワ、1997（参考文献16）による。

前半も、9月に発表された Goskomstat の人口動態によれば続き（自然減の地域は若干減少したが）、社会増も半年約15万人と90年代にみられる傾向を維持している。

地域的にみて、1996年の自然減は全経済地域で続き、モスクワの位置する中部地域でも自然減は顕著である。また、近隣の北西部、ボルガ・プヤトカ、中央黒土地域でも著しく、他方、北カフカス、シベリア、極東地方などでは比較的小さい。

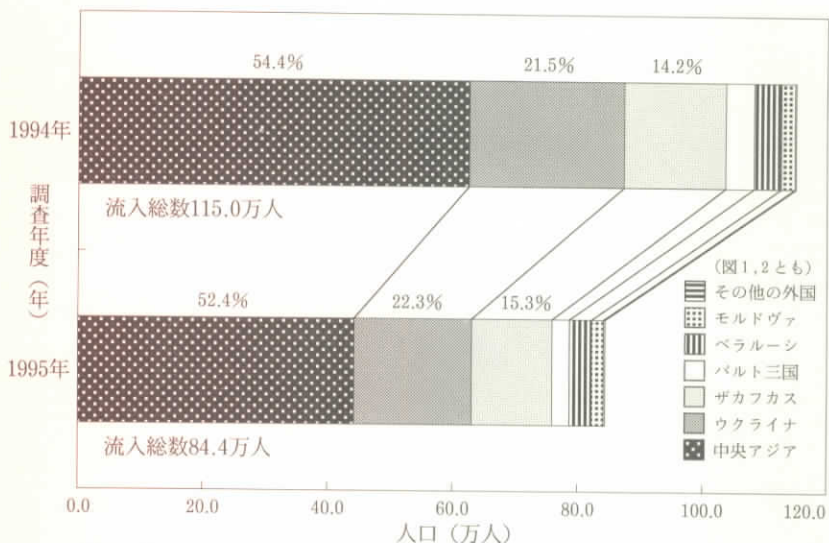
2. 人口の移動

人口移動については図1～5にグラフ化している。まず図1、2、5から明らかのように、ロシアと外国との人口の流出入はロシアの人口流入超過であり、近年の傾向を維持している。もっとも最近になるほど人口流出入の数字は減少してきている。依然として、ロシアを除くCIS諸国とバルト三国からの人口流入がみられるが、社会情勢の安定化傾向により、ロシアへ帰還する難民や避難民の流れが減少したからであろう。流入者の発地は中央アジアが最も多く、次いでウクライナ、ザカフカス諸国である。一方、ロシアからの流出先はウクライナ、カザフスタンなどである。

なお、ロシアの経済地域別外国との人口流出入で大きい数値を示すのは中部地域、西シベリア、沿ボルガ、北カフカス地域などであるが、ロシア極東地域と北部地域は外国との人口流出入で人口純流出を記録し、ロシアの他の純流入地域と異なっている。これらの地域は社会・経済情勢の変化と過酷な自然条件により人口流出の顕著な地域であるが、外国との人口流出入でも人口の流出を招いている。

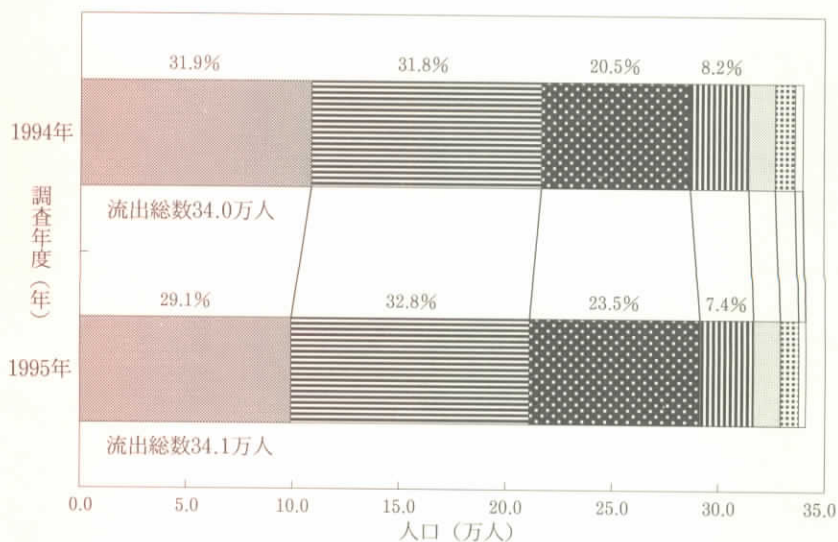
図3は経済地域別人口の流出入（国内、国外の合計）を示したものである。人口数の多い中部や沿ボルガで移動者数は多いが、人口数の少ない極東の人口移動の大きさは顕著である。この地域は開発地域として第二次世界大戦前から人口流入の著しい地域であった。しかし、以前は純流入地域であったのが、近年純流出地域に変わったのが目立っている。人口純流入は北部を除き他の経済

最近のロシアの人口移動（中村）



資料：『1995年のロシア連邦の人口と人口移動』、モスクワ、1996年⁷⁾による。

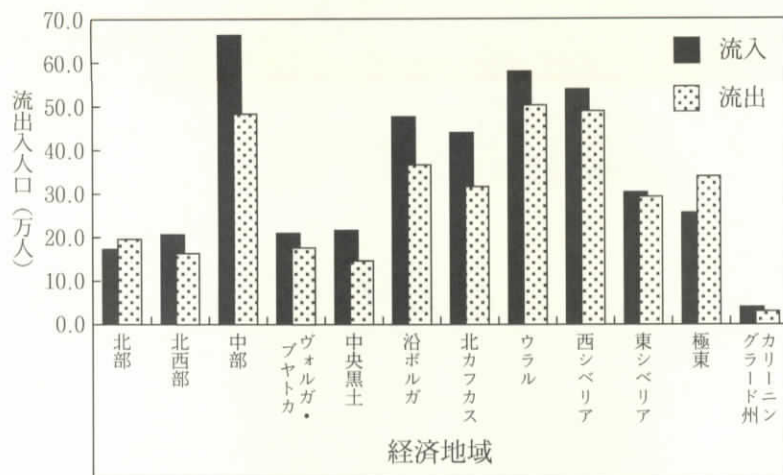
図1 近年における外国からロシアへの人口流入状況



資料：『1995年のロシア連邦の人口と人口移動』、モスクワ、1996年⁷⁾による。

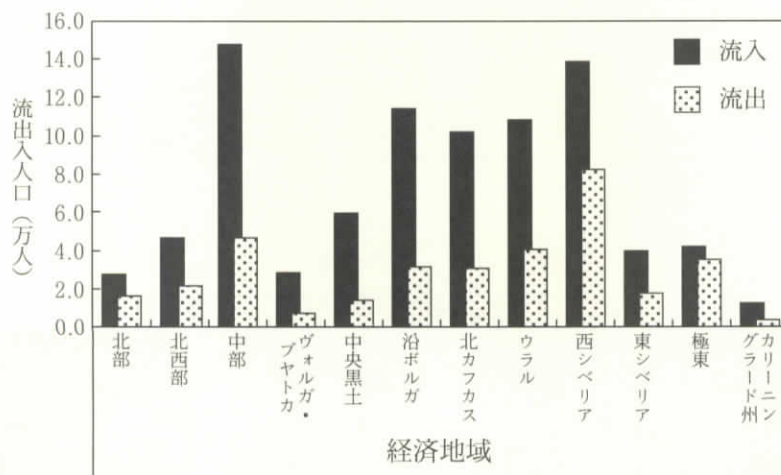
図2 近年におけるロシアから外国への人口流出状況

最近のロシアの人口移動（中村）



注：流入数・流出数ともに国内人口移動と国外人口移動の両者を含んでいる。
資料：『1995年のロシア連邦の人口と人口移動』、モスクワ、1996年⁷⁾による。

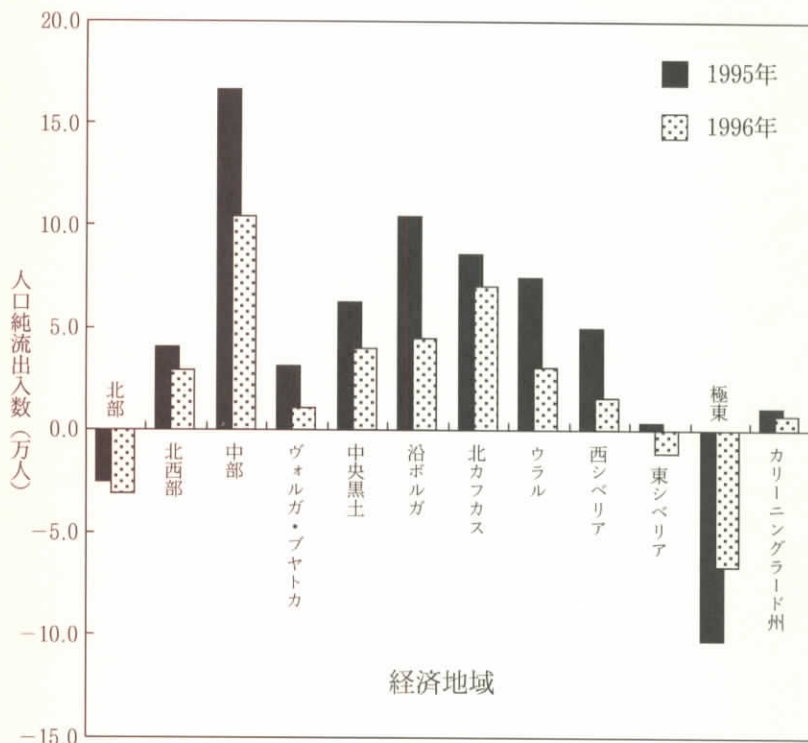
図3 ロシアの経済地域別人口流出入数（1995年）



資料：『1995年のロシア連邦の人口と人口移動』、モスクワ、1996年⁷⁾による。

図4 ロシアと外国との経済地域別人口流出入数（1995年）

最近のロシアの人口移動（中村）



資料：『1995年のロシア連邦の人口と人口移動』、モスクワ、1996年⁷⁾及び『1996年のロシアの社会経済状況』、モスクワ、1997年⁸⁾による。

図5 近年におけるロシアの経済地域と外国との人口純流出入数

地域で見られる傾向である。なかでも中部、沿ボルガ、北カフカスでその数字は大きい。

3. ロシア極東地域

上述の移動についての各地域の具体的な説明は次回に回すとして、ここでは

一例として昨年ウラジボストクで出版された『市場経済移行のもとでの極東地方の経済と集落の地域構造の変化』⁹⁾を取上げてみよう。

ロシア極東地方は1990年代に入って、極東地方のすべての州、自治州、自治管区で人口流出地となった。

それ以前人口流入地域であった極東地方のこの変化はかつてのソ連構成共和国の独立、交通費の急騰を含む財政問題などであるが、大きな理由はソ連がこれまで採ってきた人口移動政策の転換だとしている。また、これまでの人口、労働力誘引のために採られた物的刺激、各種特典はハイパーインフレーションで魅力がなくなった。従って、1994年には極東地方で10万人が流出した。只、旧ソ連加盟国の中央アジア、ザカフカスからの避難民（これまでに流入しているが）の増大が予測されるという。

経済改革は北部、特に極北部の産業、とりわけ鉱工業に重大な打撃をあたえた。これまで補助金に依存する生産を続けてきた企業はそれが得られなくなったのと、多くの企業が軍需産業と関連することから来る受注減から生産が急速に低下し、それが工場の減産、閉鎖をもたらし、従業員の解雇、流出を引き起こした。マガダン州では1994年欠損企業が全企業の40パーセントを数えたが、極東地方の28.5パーセント、ロシアの16パーセントに比べて、極めて高い数値である。

このような北部地域からの人口の流出はロシア以外のウクライナその他の旧ソ連加盟国への出身民族の帰還のみならず、極東地方南部への人口流入をもたらした。例えば、沿海州へは1990年にカムチャッカ、マガダン、サハリン州から6000人が流入したが、1992年には8000人、1994年には15,000人へと増大している。

外国人労働者の増加は既述の通りであるが、極東地方では1995年9000人の外国人労働者のうち70パーセントが農業と建設業で働いていた。1990年には主に工業部門で働いていたのと大きな違いである（1990年にくらべて工業部門労働者は3分の1に減少）。外国人の中心は中国人（5000人）と朝鮮人（1500人）である。

問題は不法入国者であり、1994年にロシア全体で163万人といわれていた。

ただし、他の機関の推定では中国人の不法入国者はシベリア、極東地方で500万人といわれる。彼らのロシア消費市場での活躍ぶりはいうまでもないが、さらに不動産の取得、地元の金融市場への浸透にロシアは警戒の目を向けている。只、500万人という大きな数字はロシアの研究者とのインタビューのなかでも肯定的な人と否定的な人があり、その評価は分かれている。なお、公認の外国人労働者数が少数なのは第5回朝鮮学シンポジウムのモトリッチ報告からも明らかである。それによれば、1996年のハバロフスククライの流入外国人労働者数は2962人（中国人1246人、朝鮮人民民主主義共和国296人、ベトナム103人、モンゴル20人、CIS諸国1217人、その他80人）であった。なお、かつて沿海州南部に多数居住していた朝鮮人の中央アジアへの追放、ペレストロイカ以降のかつての居住地への帰国（これは中央アジアの地元民族の迫害にもよるが）希望、さらにはここに民族自治行政単位の形成への願望があり、具体的にそれにむけての運動が進められたが、これに対するロシア人の反応は極めて警戒的である。つまり朝鮮人民民主主義共和国および中国の延辺朝鮮人自治区と直接国境を接し、将来ロシア民族の安全にとって深刻な影響をもたらすと見なしているからである。また、中国人は一時的な滞在の傾向を示しているが、朝鮮人の永住者の多い傾向にも警戒している。

また、1997年出版の『沿海州の地理』では、人口移動が沿海州で流出超過になったのは1990年からとし（表2）、かつての居住地へ帰る人が多くなった（総数の約半分）と述べ、帰国者にウクライナ、ベラルーシ、ラトビア、リトアニア、アルメニア、カザフ、タタール、モルドバ人が多いという。流出の主要な動機は自民族との関係を取り戻す、親族の近くに居住したいという希望からだとしている。ロシア人の流出は物価高、社会・経済条件の悪化、労働条件の不満足、住宅不足などである。

なお、先述の極北からの移住者は増加したが、難民と共に定住の意志は薄いという。

州内の移動は表3の通りであるが、移動者数の減少と最近の都市の流入超過と農村で流出超過がみられ、一時農村への人口流入増の流れが以前の流れに戻ってきている。

最近のロシアの人口移動（中村）

表2 沿海州の人口移動

年度	移動数（人数）	住民1000人当たり（%）
1970	29068	17.2
1975	21759	12.4
1980	14187	7.1
1985	15321	7.1
1990	5120	2.2
1991	1920	0.8
1992	-3310	-1.4
1993	-7008	-3.1
1994	-1534	-0.7
1995	-4350	-4.35

資料：『沿海州の地理』p.78¹³⁾による

表3 沿海州の州内移動（1000人）

年度	総数（人数）		都市域（人数）			農村地区（人数）		
	入	出	入	出	社会増	入	出	社会増
1990	57,7	57,7	37,8	34,3	3,5	19,9	19,7	0,2
1991	48,0	48,0	31,8	30,5	1,3	16,2	14,5	1,7
1992	40,6	40,6	27,5	28,1	-0,6	13,1	12,5	0,6
1993	33,4	34,4	23,6	23,7	-0,1	10,8	10,7	0,1
1994	35,8	35,8	24,6	24,4	-0,2	11,9	11,4	-0,4
1995	38,4	38,4	26,4	25,7	0,7	12,1	12,8	-0,7

資料：『沿海州の地理』p.80¹³⁾による

ところで1997年度の学术交流でモスクワに滞在していた時入手したハバロフスクの人口（1997）¹⁴⁾、マガダン州の統計（1997）¹⁵⁾をみても人口減、人口流出は続いている。マガダン州では1996年の人口の自然増減は-2.1パーミルの自然減であるが、州内の地域差は大きく、最大の自然減は都市型集落ソーコルの-5.3パーミルであり、ウプター（都市型集落）は5.6パーミルの自然増であった。しかし、マガダン（-1.7パーミル）初め殆どの都市域で人口減を記録してい

る。

一方、人口移動でも流出超過で、1996年流入12,316人、流出17,971人を記録し、5,655人の純流出であった。州都マガダンでも994人の純流出であった。都市部での人口減が一般的傾向なのはハバロフスクライの統計からも明らかである。ハバロフスク市でも1996年1,000人の人口減であった。

結びにかえて

今回ロシアとその他のCIS諸国、バルト三国の人口移動を取り扱ったが、CIS諸国間といわゆる遠い外国間の人口移動については触れなかった。この分野は次回で取り扱おうと考えている。これに関する資料は種々あるが、モスクワの東洋学研究所滞在中に入手した1997年発行の『クリムタートル・帰国の諸問題』²⁰ はインタビュー調査も行い、小冊子ながら優れた研究書で、一例として紹介しておきたい。ここにクリムタートルのクリムへの帰還者数が出ている。その数は1996年半ばまでに25万人を越えている。帰還者の多い年は1989～1993年で、最近は減少（1995年9,200人、1996年前半3,600人）している。

また、ロシアを中心としたCIS諸国への外国人労働者（不法入国者を含む）流入の動き（一部はここで紹介したが）も興味深いものであるが、次の機会に譲りたい。いずれにせよ現在の人口移動はソ連時代と異なる動きがみられ、このことが内外の研究者の興味を引いているといえる。

参考文献

- 1) Русские в новом зарубежье М., 1994
- 2) Русские в новом зарубежье: Киргизия М., 1995
- 3) Русские в новом зарубежье М., 1996
- 4) Демографический ежегодник России 1995, М., 1995
- 5) Демографический ежегодник России 1996, М., 1996
- 6) Лебедева Н. М., Новая русская диаспора, М., 1995
- 7) Численность и миграция населения Российской федерации в 1995

- г., М., 1996
- 8) Миграция населения Российской Федерации, за полугодие 1996 года, М., 1996
 - 9) Бакланов П. Я., Романов М. Т., Мышков А. В., Изменения в территориальных структурах хозяйства и расселения Дальнего Востока при Приходе к рыночной экономике, Владивосток, 1996
 - 10) Миграции и новые диаспоры в постсоветских государствах, М., 1996
 - 11) Краснец Е. С., Международная миграция населения в России, М., 1997
 - 12) Крымские татары : Проблемы репатриации, М., 1997
 - 13) География приморского края, Владивосток, 1997
 - 14) Магаданская область в цифрах в 1996 году, Магадан, 1997
 - 15) Численность населения Хабаровского края на 1 января 1997 года, Хабаровск, 1997
 - 16) Социально- экономическое положение России в 1996 г, М., 1997